

## 第6章 歩き当初の旅日記

当時は下記の通り、駅舎到着時刻の記録や駅舎の写真などはありませんでした。

### 第1節 本線（千歳船橋～自宅）

小田急線の第1歩は、平成12年6月3日（土）千歳船橋から自宅までの27.6Kmの道のりである。9時半頃現地に行き、チェリッシュのCDを皮切りに聞きながらのスタートとなった。CDケースの中には、10時間の歩きにも飽きないよう、私が青春時代心に残った懐メロを中心とした10枚のアルバムが入っている。この10枚は、はしだのりひこ、加山雄三、トワ・エ・モア、太田裕美、かぐや姫、カーペンターズなどであるが、必要に応じ子供の最新版CDアルバムを借りて入れ替えることもある。

鉄道沿線は初めてだったので、鉄道の方向性を意識せず手当たり次第に歩いた。読売ランドまではほぼ小田急線に沿いつたい歩きをした。読売ランドのラーメンチェーン店（東秀）で昼食をとった。読売ランド以降、適当に歩いたため、小田急線とかなりかけ離れ、桐蔭学園の近郊、王禅寺、長津田、こどもの国と言った地名のところまでの歩きとなった。特に、夕方近くの恩田川沿いの歩きは、正にウォーキングコースとして最適ではあったが、道に迷い自分を見失ったので楽しむような気分にはなれなかった。それで無駄な時間を費やした。成瀬駅に到着してほっとしたのも東の間、それから自宅までの道のりがまた大変になるとは思わなかった。境川を越え、つきみ野、中央林間と普段の神経であれば、すぐクリアできるエリアでも、パニックと夜間で道路状況が閉ざされたため、一層迷いに拍車をかけた。迷いに迷って自宅に着いたのは、8時半頃であった。生まれて初めて20Kmに挑戦したので、足は棒のようであった。この時は、万歩計で66,430歩となっていた。今日は、道に迷い大変な一日であったが、当初の通り走破でき充実感で一杯だった。また、自分なりにウォーキングの醍醐味を発見した気分であった。月曜日には、同僚等に苦労話のトーンで話したつもりでも、知らず知らずに自慢話になっていた。

### 第2節 江ノ島線（片瀬江ノ島～自宅）

2回目は、2000年6月18日（日）江ノ島から自宅の行程、23.1Kmである。江ノ島から藤沢までの道のり、広い道路に沿い歩いたこともあり、辻堂駅の近くまで行ってしまった。藤沢までの復旧に苦労した記憶がある。藤沢から藤沢本町への道を探すのも大変であった。正午近くになると太陽が天井に位置するため、影では方向を見極めるのが難しい。ここで、「磁石の携帯」を痛感し、以後のウォーキングでお袋の札幌土産磁石を

所持することとした。藤沢の近郊で、次男圭亮の関係で高校見学をした地名を通った時は懐かしい気分で一杯となった。善行でラーメンを食べた。大和の辺りで左足の脛のあたりが痛くなり、足を引きずりながら何とか自宅までたどり着けた。この時は、携帯電話を所持していたので気分的には気楽であった。家内には「足が痛くて歩けず困っているが、ぼちぼち歩いて帰る」と連絡した。足の痛みで集中力を欠いていたのか、大和で南林間への道を誤り山王原まで行ってしまった。この時の万歩計は **51,571** 歩となっていた。

### 第3節 本線（本厚木～自宅）

第3回目は、2000年7月9日（日）本厚木から自宅までの **13.1**Kmの道のりである。11時頃本厚木駅をスタートする。先週の山手線一周で左足脛を痛めたので、土曜日に近くの接骨院に行ったこともあり、この日は日曜日となった。もちろん患部にテーピングしての歩きとなった。この時先生から「足が痛くなったら冷やすといいよ。また、ウォーキングが終わるとアフターフォロとして足全体を冷やして置くといいよ。」とアドバイスを頂いた。相模線の交差、相模川越えもあり、本厚木から海老名までの地形を複雑にしていた。海老名からさがみ野までは、小田急線というよりは相鉄線に沿ったコースである。この沿線を通って家内の運転で海老名に深夜映画を見に行ったりもしたこともあり、慣れた道と思えたが意外に知らなかった。相鉄線もあり道に迷い易い箇所は多くあった。でも、道に迷うことなく自宅につくことができた。桜並木がスタートするさがみ野駅前のコンビニでむすびを買って近くのベンチで昼食をとる。昼食後さがみ野桜並木を **1**Km 位通り抜け自宅まで帰る。万歩計で **18,116** 歩と距離が非常に短かったので、CDを堪能することができなかった。

### 第4節 本線（小田原～本厚木）

第4回目は、2000年7月20日（木）海の日の小田原から本厚木までの営業距離 **37.1** Kmのウォーキングである。山越えは、松田近郊と伊勢原近郊の **2** 箇所あった。第一生命の大井町本社の近くを通り、小田急線新松田駅に向う。昼食は渋沢の川の辺でコンビニ弁当を食べる。道に迷ったのは昼食後しばらくしてで、渋沢近郊の三廻部である。磁石を持ち合わせていなかったため、方向が全くわからなかった。谷があり単純には、自分が意図する方向になかなか行くことができない。この日は、途中昼食をとった渋沢までは順調であったが、**246** 号を行けばよかったのに、「車の廃棄ガスを避け閑静な道を歩こう」更には「近道をしよう」とスケベ根性を起こしたため、とんでもない事態に巻き込まれた。昔の人はよく言ったものである。「急がば回れ」という格言。痛切に感じた。人に聞こうとしても人がいない。小田急沿線の秦野市住宅街が下方に見えるが、谷、川

が邪魔してそちらの方向に思うように行けない。引き換えしてもだめ。困り果てていた時、トラックの運転手に出くわし聞くことにした。そのお陰で迷い道からクリアすることができた。迷った時は、「時間ロス覚悟で真直ぐ進む」のも1つの方法であることを教えてもらった。自分の考え方が、この時は立証された。渋沢の近郊の246号に到着したときは2時を回っていた。道路標識には本厚木まで20Kmと表示されていた。それから懲りて、246号沿いを歩き無事、7時過ぎ本厚木駅に到着することができた。途中東海大学病院のある伊勢原でマクドナルドに入り休息した。自宅に着いたときには、万歩計で7万4293歩をマークしていた。この時は、大変疲れたが、得るものが多い一日でもあった。



※新松田駅

## 第5節 本線（新宿～千歳船橋）

第5回目は、2000年7月22日（土）新宿から千歳船橋までの9.2Kmのコースである。新宿には、11時40分頃行き歩いた。途中梅ヶ丘の羽根木公園に立ち寄り、今年一の猛暑35℃をのりきった。涼しそうな木陰が沢山あり、読書や昼寝で猛暑を対処している人も多数いた。また、プールに入る用意した人も多数いた。遊歩道を気持よく歩いていたところ、経堂の近郊で若干道に迷ったことと、赤堤の地名がやたらに私の脳裏に焼きついている。千歳船橋駅前の松屋で遅い昼食をとりアップした。この時は、万歩計で25,771歩となった。



※羽根木公園

## 第6節 多摩線（唐木田～新百合丘）

第6回目（2000年7月23日（日））は、昨日の続きとなり多少疲れていたが、長男洋平の20歳の誕生日を祝うため小田急線を走破したかった。そのため、唐木田から新百合ヶ丘までの多摩線に挑戦した。距離は、10.6Kmとショートコースであったが、鶴川と若葉台（京王線）への道はわかったが黒川への道が分からず、永山で何回もループする。多摩線が地下に潜っている認識がないためこのような結果を招いた。後で地図をよく見ると地下に潜るマークがあった。これ以来虫メガネを持参することとした。永山までは、整備された道路や広大な人工公園を歩き、目の保養をすることができた。また、初めて、小田急多摩センター駅近郊のサンリオピューロランドを見た。この遊園地は、平成2年頃フコク生命の新商品ピュアと同時期に産声をあげたので関心があった。写真にも撮影した。残念ながらそごう百貨店の閉鎖の光景も見た。昼食は永山駅のコンビニで弁当を買い、駅前の公園で食べた。黒川から新百合ヶ丘までは特に道に迷うことなく歩くことができた。新百合ヶ丘駅の近郊にも遊歩道があるのを見つけた。今日は、永山で道に迷ったため、万歩計で4万1891歩を示した。



※ピューロランド

## 第7節 箱根登山線（小田原～箱根湯本）

1年遅れであるが、平成13年7月7日（土）七夕の日、フコク生命の立命館大学出身者会合の嵐山会（らんざん）があり、小田原から箱根湯本、更には湯本ホテルまで歩いた。小田原、箱根板橋、風祭、入生田それから箱根湯本は箱根駅伝のコースに沿ってのつたい歩きとなった。途中箱根板橋駅で記念写真を撮る。風祭の近郊のサービスエリアには観光客で一杯だった。湯本までの営業距離は、6.1Kmとショートだが、小田原駅の城山で道に迷ったため、万歩計は14,647歩となった。夜は、山田・坂倉・南・森・樫原・上島・黒田・友淵の8名で嵐山会を開催した。本日で、名実ともに小田急線は広義な意味からもクリアした。

